

沖縄リゾートウエディング

青い海や白い砂浜など、沖縄の開放的な環境が結婚式の場として選ばれ、現在、多くのカップルが沖縄へ訪れ式を挙げている。このようなリゾートウエディングはここ数年、順調に増加しており、海外客も多く訪れるようになった。沖縄観光の課題解決の一助としても注目の集まるリゾートウエディングについて、受入れの現状や期待される効果、海外客への対応などについて紹介したい。

沖縄リゾートウエディングとは

沖縄県によると、沖縄リゾートウエディングとは、県外・海外在住者が、挙式、披露宴、フォトウエディングなど、結婚に関わる行事を目的に来県し行うウエディングの総称とされている。

沖縄が観光地として認知されるようになって久しいが、沖縄リゾートウエディングの歴史は比較的新しく、ひとつの分野として捉えられ、統計がとられるようになってまだ20年と経っていない。

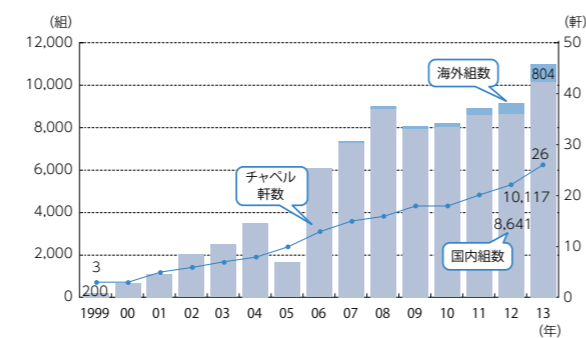
沖縄は元来、美しい海と白い砂浜など、結婚式を挙げるのに魅力的な要素を持ちあわせていたが、ここにリゾートウエディングという新しい概念が認識されるようになった。チャペルが建てられ、沖縄で挙げるウエディングのプロモーションが行われるようになった。認知度も徐々に高まり、沖縄リゾートウエディングの件数は大きく増加。併せて、リゾートウエディングを受入れるチャペルもさらに建設され、現在、沖縄はリゾートウエディングにおける国内での先進地といわれるまでになっている。

沖縄リゾートウエディングのこれまでの受入れ推移をみると、統計が取られ始めた1999年では、200組であった。その後、組数は徐々に増え、06年には6,000組に達した。その後も堅調な増加を続け、2013年では初の10,000組超を達成している(図表1)。

近年、県民の年間婚姻数が8,000組台で推移していることを考慮すると、県民の婚姻件数よりも観光客の挙式数が多い状況にあるのだ。

2007年頃からは、海外客もみられるようになった。海外客のリゾートウエディング組数は、2013年時点で、国内客の10分の1に満たない程度であるものの、最近では急激な増加傾向にあり、新しい市場として注目が集まっているところだ。

図表1：沖縄リゾートウエディングの挙式組数と主要チャペル数の推移



(出所) 沖縄県 観光振興課

リゾートウエディングの経済的効果

沖縄観光においては、消費単価の向上が課題の一つとして挙げられているが、沖縄リゾートウエディングはその消費単価の高さから、課題解決の一助を担うものとして推進されている。

沖縄県によると、リゾートウエディングの費用は、挙式・披露宴を行う場合の費用が平均128万円、挙式のみの場合でも約40万円となっている。一般の観光客の消費単価が7万円弱ということを考慮するとかなり高額である。

さらに、リゾートウエディングの場合は、新郎新婦に加え、参加者も平均19名おり、これら参

列者についても経済効果が見込まれる。

沖縄リゾートウエディングの2013年実績によると、参加者も含め年間およそ23万人がリゾートウエディングのために来訪しており、その経済効果は、およそ197億円と推計されている。

このほか、リゾートウエディングには、リピーター醸成効果も期待されている。これは、沖縄で挙式することで、新郎新婦にとって沖縄が思い出の地となり、またいつか沖縄へ行きたいという意向につながるという考え方である。

沖縄リゾートウエディングのシーズン

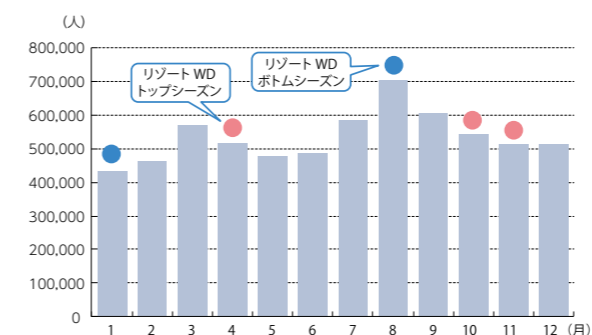
リゾートウエディングのトップシーズンは、一般的な沖縄観光の繁忙期とは時期が異なる。2013年の月別入域観光客数をみると、3月と7、8、9月の観光客数が多い。これは春休みや夏休みと重なる時期である。対して、2013年の沖縄リゾートウエディングのトップシーズンは4月および10、11月であったと発表されている。

観光の繁忙期は航空券やホテル価格など旅行費用が高いため、この時期に挙式すると、参加者の負担金額が大きくなる。挙式を行う側は、参加者の負担軽減も考えて日取りを決める。

4月と10、11月というのは、旅行費用が割安で、また沖縄らしい陽気が期待でき、梅雨や台風の影響が少ない時期である。これらが、沖縄リゾートウエディングのトップシーズンになっている理由と考えられる。

このように、一般的な繁忙期とリゾートウエディングのシーズンが重複していないことは、リゾートウエディングの受入れを推進することで、繁忙期以外の時期の観光客数の底上げ(平準化)の作用も期待できる。

図表2：月別入域観光客数(2013年)



(出所) 沖縄県入域観光客統計を基に作成

【KRI アウトLOOK：沖縄リゾートウエディング】

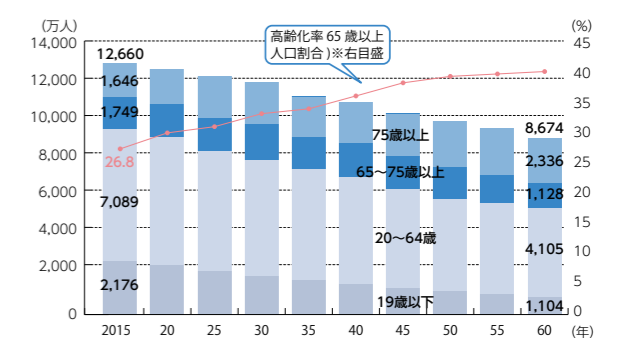
なお、リゾートウエディングの大敵は台風である。挙式の予約は半年、1年前から行われ、参加者もその日程に合わせ、スケジュールを組む。こうして決まった挙式日に台風が当たった場合、式が延期、あるいは取りやめになってしまう。延期になれば、参加者は再度の日程調整ができず、参加できなくなってしまうことも多いと想定される。最悪、取りやめになった場合には、新郎新婦だけでなく、参加者も含めて見込まれていた経済効果が失われてしまう。

少子化による市場縮小

現在、日本の人口は減少傾向にあり、ウエディング業界においても将来の国内市場の縮小が懸念されている。

国立社会保障・人口問題研究所の将来予測によれば、2060年の日本人口はおよそ8,670万人となっている。高齢化は輪をかけ、65歳以上が人口の40%を占めるという予測がなされている。このような状況では、婚姻数自体大きく減少してしまう。

図表3：日本人口の将来予測



(出所) 国立社会保障・人口問題研究所

先にも述べたが、沖縄リゾートウエディングは9割以上が国内客で、海外客のシェアは未だ低い状態である。しかし、国内市場では市場自体の縮小に加え、経済の低迷などからくる結婚式の簡素化の傾向があり、式を執り行わない若者も増えている。このため、海外に市場を求める動きが活発化している。

海外客の現状

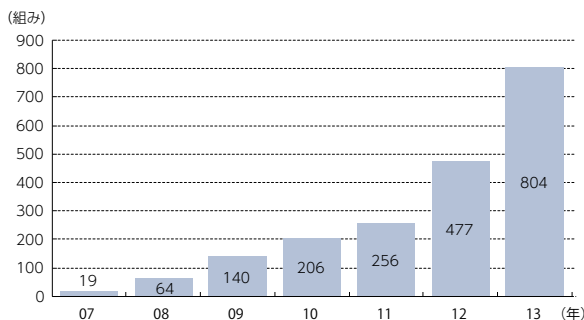
ここから、海外客の動向について見て行きたい。沖縄リゾートウエディングにおける海外客の受入れ件数は堅調に推移している。図表4をみると、2012年は前年比86%増、2013年は同69%増と

増加率は顕著である。

海外顧客層は、沖縄と直行便で結ばれている香港、台湾、中国、韓国で、これらの国・地域を対象にプロモーションが展開されている。なかでも香港と台湾へのプロモーションは奏功しており、現在、この2つの市場が海外需要を牽引している。海外シェアの内訳では、香港が52%、台湾が35%を占めている状況だ（図表5）。

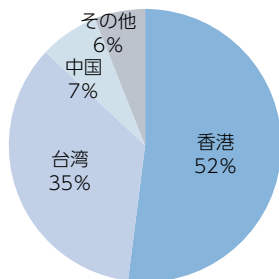
なお、中国や韓国に対してもプロモーションが

図表4：沖縄リゾートウエディングの海外客挙式組数



(出所) 沖縄県観光振興課

図表5：沖縄リゾートウエディングの海外客（組）の内訳（2013）



(出所) 沖縄県観光振興課

行われているが、需要は少ないようだ。中国人でもリゾートウエディングを行うのは、中国人と香港人のカップルであることが多いという。韓国については、挙式は自国で親戚に囲まれ執り行うという観念が強く、ハネムーンなら考えられるが、リゾートウエディングを行う者はほとんどみられないという。

現在、ブライダル業者の間では、香港、台湾が主要ターゲットに、趣向を凝らしたブライダルフォトや結婚アルバム作成などのサービスが行われているが、そのなかでも特に香港客の誘致に有効なサービスとして「リーガルウエディング」がある。

リーガルウエディング

リーガルウエディング（Legal Wedding）は、

法に基づく結婚という意味である。主に海外の訪問先で、自国においても法的効力のある婚姻手続きを行なうことを指していわれる。

リーガルウエディングは、具体的には、海外でウエディングを行う際、自国からパスポートや国籍証明、婚姻要件具備証明書（結婚可能な身分であることを証する書類）等の必要書類を持ち込み、式場が属する自治体へ届け出て、婚姻届受理証明書を発行してもらうというものである。

リーガルウエディングの大きな特徴は、香港にしか需要がないところだろう。2013年の実績で、リーガルウエディング件数は157組、すべてが香港客となっている。

リーガルウエディングが香港客に人気がある理由の一つに、日本の自治体から交付される、日本語で記された婚姻届受理証明書が挙げられる。これが「海外で結婚した証明」として、一種のステータスとなっている。香港における結婚式の手続きは、事務的で味気ない、婚姻届出先である婚姻登記所が常に混雑しているなどの背景も相まって、リーガルウエディングに人気が集まっているといわれる。

ただ、リーガルウエディングの実施に際しては、ブライダル業者、自治体にかかる手間が膨大である。特に自治体にとっては、外国人同士の婚姻という慣れない手続きである上に、外国語の書類を取り扱うことになる。法的な手続きであり、間違いは認められず、外国語の書類を一字一字チェックする必要がある。

本来業務である住民向けのサービスがおろそかになるという声があるのが実際のところだが、受入れに積極的な自治体では、海外客から笑顔で感謝の言葉をいただくことができ、やりがい大きいという声も聞かれている。

リゾートウエディング推進で幸せの地・沖縄へ

リゾートウエディングには経済効果、リピーターの醸成、ボトム期の観光客数の底上げの（平準化）などさまざまな効果が期待される。また何よりも、ブライダル産業という幸福産業で、沖縄が世界に名を馳せ、沖縄が多くの人にとっての幸せの地となる意義は大きいだろう。

理想的な沖縄の実現に一躍を担う沖縄リゾートウエディングの今後のいっそうの発展を願いたい。

（海邦総研 地域経済調査部研究員／瀬川孫秀）